

停止車の陰を確認せずに右折

はじめに

これは、(一財)全日本交通安全協会発行の「人と車」2018年4月号に掲載された記事の概要を紹介するものである。筆者は、元科学警察研究所交通科学部長牧下寛(まきした・ひろし)氏である。

■ 四輪車が右折中に停止車の陰から出てきた二輪車と衝突した事例

筆者はドライブレコーダーに収められた事故事例について考察をされている。この文章ではビデオ画像を省略し、図によって説明する。

図1を参照されたい。自車(四輪車)は、集合住宅の終端で右折する予定で、合図を出していた。前方の信号は青で、対向車が同様に右折待ちで合図を出して停車していた。

衝突 1.6 秒前、対向車の右側に二輪車の前照灯の光が見えた。自車はブレーキに足を掛けたが、そのまま右折を続けた。

衝突 1.3 秒前、二輪車が見えてきたが、自車は右折を続けた。

衝突 0.6 秒前、二輪車は右にハンドルを切って回避行動を始めた。自車は右折を続けた。

衝突。自車の側面に二輪車が衝突した。

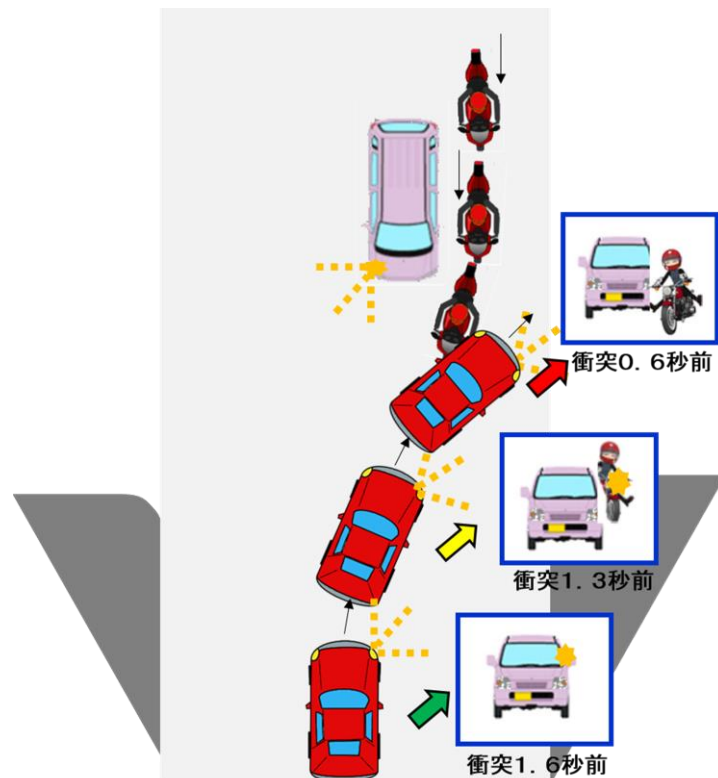


図1 四輪車と二輪車の衝突の経過

■ 事故原因の考察

四輪車の運転者は二輪車が見えない場所を走行しているということを意識して運転しなければならない。

図2のように、左折をしようとしているときに左側から出てくる二輪車との衝突、右折をしているときに停止している対向車の陰から出てくる二輪車との衝突は、典型的な形態である。

左折時に左側から出てくる二輪車は、バックミラーと目視で確認することができるが、右折時に対向車の陰にいる二輪車の確認は困難である。二輪車を確認できる位置まで進行してしまうと、二輪車の進路を塞いでしまうこともある。

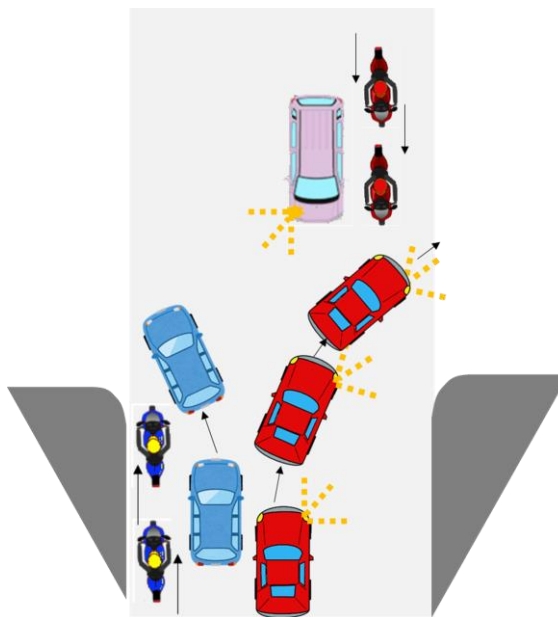


図2 右左折時に二輪車と衝突する典型的な形態

今回の事例を筆者は図3で説明している。今回のように20km/hで走行している場合、Aの場所で二輪車の前照灯に気付いて急制動をしたとしても、約5m進んでいる(反応時間0.5秒、摩擦係数0.7で計算)。

B付近で二輪車に気づき急制動した場合は、C付近で停止する。二輪車も20km/hで走行している場合、二輪車がE付近で気付いた場合、F付近まで進む。

今回の事例では、四輪車側に回避動作が見られなかった。四輪車の運転者は、右折して入っていく道路の状況を見る必要もあるので、停止車の陰を確認する余裕がなかったとも考えられる。安全を確認し、危険に気付いたときに回避するためには、Aの付近で一度停止し、対向車の陰が見通せるような位置に来るまでは、徐行して小刻みに進行するのが最も安全である(二輪車同士の場合も同様)。少しずつ進行していれば、二輪車が先に気付く可能性もある。ただし、二輪車の運転者は四輪車の運転者に比べ、比較的近いところを見ていると言われている。

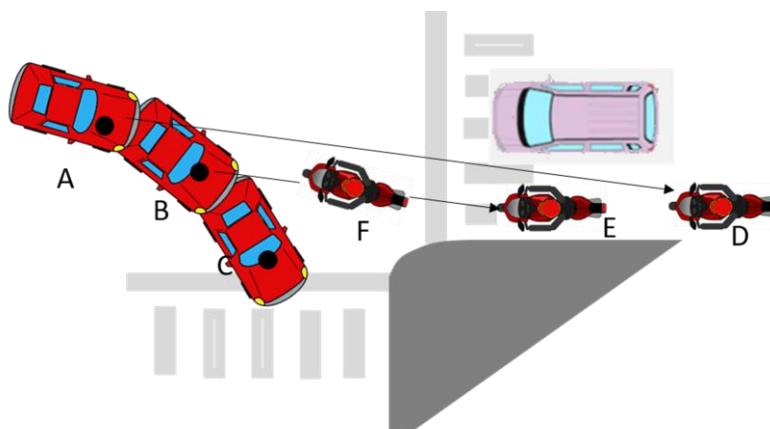


図3 自車と二輪車の位置関係の検討

今回の事例ではないが、図4のように対向車線が渋滞しているときに、停止車の陰から、右側走行の自転車が出てくる可能性もある。衝突を避けるために、一時停止してから、両側が見通せる位置まで、小刻みに進行する必要がある。

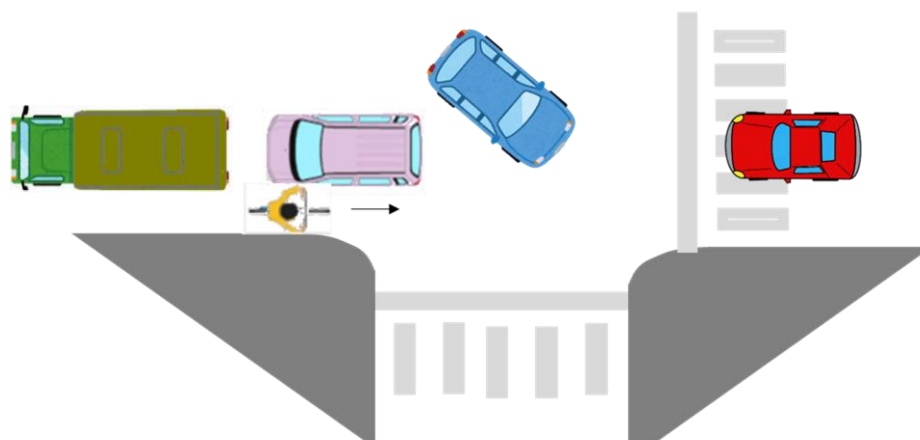


図4 対向車線が渋滞しているときの逆行自転車の危険性

おわりに

今後とも防衛運転を励行し、右直事故の防止に留意してもらいたい。

以上
(作図: 浅原)